

是より攝州木部にて仕立九州中國四國邊江送る所の種類、

一赤楮あかかうぞ 木肌赤く、木立細く、葉もほそく、切こみなく、皮もうすし、

一黒楮 大體おぶちに似て、葉の植こみ深く、長く伸、正味多し、平地に植こみ深く、

一眞楮 石州にては専ら用ふるよし、一州ついでらかけり、

一高楮 紙性少しあしけれど、木至て長く伸るなり、たねをとりて、紙に少しなれば、分根して、苗をこしらふるにおよばず、

此外にも種類あり

餘の國々にて下紙に漉交る品あるべし、筑後にては藁を細かにきざみ打て、楮に交て漉たるを豊年紙とかいへり、又江戸にて艾を交て漉たるを見、筑前にて竹の子の伸て、頓て葉生せんとするころを細かにた、きて、楮を少し入漉たるを見し事あり、如此楮に交て漉ぬれば、木の皮杯に下紙に漉交る品あるべし、

〔駿國雜誌 二十六〕楮

富士郡上井出村にあり、當村及所々是を植て紙を製せり、凡此木、かち、苧、高苧等の種類あり、茲に植る所は眞楮、苧也、又三股を以て製るにも、眞楮、苧を入ざれば、すく事あたはず、毎年十月より三月下旬まで漉べし、楮、三股共、伐、夏紙は漉かず、稀に漉是を製るに、初祝、後祝等さまぐの祝事あり、すべて此紙を漉には、根だも、野、黄、蜀、葵、を云、多く、蔓だも、山、黄、蜀、葵、を云、自然、こがだも、この葉を云也、の三汁を加へて漉べし、又眞楮、苧を加ふるの多少に依て紙の強柔あり、凡紙は板にはる方を表とす、當國所々是を製すといへども、十文字端きらず等の厚紙を製するは、安部郡藁科の奥のみ、或云寒所は生紙を出し、暖地は生紙を製する事難し、是上地の水に依れる處也云々、

〔重修本草綱目啓蒙 二十五〕楮

栲品字 楮實一名任古今注 穀樹子本經 構一名楮桃樹救荒本草 穀桑通雅